

◆川柳

天を仰ぐ

賞味期限夫のお腹で試しみる

孫の守り慣れない爺様猫の顔

政治家のみえみえの嘘厚い顔

我が町も聞こえる高齢虫の息

あの頃は空を仰いだ今は天

瘤だらけの人生

味噌汁のこんななうまい古希の朝

赤い糸切れてはつなく瘤の数

緩和ケアいのちをつなぐ手と手と手

童心の少しずらせば風の秋

縁側の猫のあくびに救われる

夢リニア

夢リニア都会の垢も秒で来る

春草がやはりいいねと大観展

三段目満津田だ待つてろ御嶽海

かかりつけ医者も患者も共に老け

換算に苦労もめでたい新元号

原俊夫

(高9回)

●はら・としお

柳号・閑原。阿智村(旧・会地村)出身。俳句や川柳はかねてから、時々ですが作っていました。お酒の席での、即席川柳は駄作であっても、笑って楽しんでおります。80歳の今は、スポーツジムの川柳仲間に加わって互いに競って楽しんでます。俳号は華生、柳号は暇なことしている閑原です。川柳は穿ち、軽み、笑いをモットーに作っています。

宮下恭一

(高18回)

●みやした・きょういち

柳号・一穂(いっぽ)。飯田市大通り出身。還暦をきっかけに六十の手習いとして川柳入門し、今古希を迎えております。師は尾藤一泉氏です。現在は桜木庵尾藤川柳と名乗られております。自らの心の内面を吐露する創作川柳を目指し、人生を歩んでいきたいと思っています。

下島明

(高19回)

●しもじま・あきら

柳号・迷犬(めいけん)。飼っていたテリア犬が、可笑しくらしいの迷犬でした。そこからの柳号です。クスッと笑ってもらえる時事川柳を詠んでいます。時事ネタは賞味期限が短いので難しいのですが、そこを乗り越えての作句をこれからも目指したいと思っています。